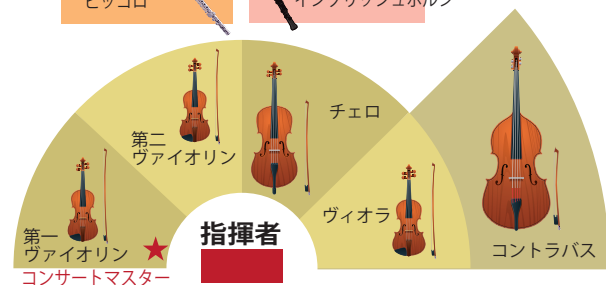
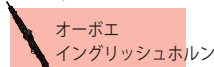
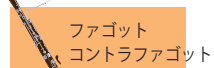
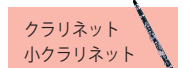
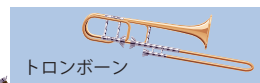
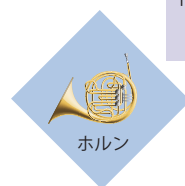


大太鼓、小太鼓、シンバル
トライアングル、タムタム
シロフォン
タンブリン

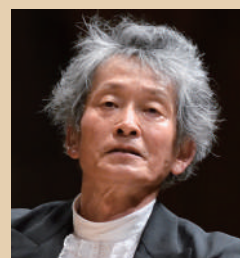
ティンパニ

【オーケストラ配置図】 12/18 第1030 回定期演奏会

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認
してください。



指揮者
コンサートマスター



© Fumiaki Fujimoto

終身名誉指揮者

小泉和裕 Kazuhiro KOIZUMI, *Honorary Conductor for Life*

東京芸術大学指揮科卒業後、ベルリンのホッホシューレ（現、ベルリン芸術大学）に入学。
1973年夏、ボストンのタングルウッド音楽祭に参加し研鑽を積む。

1973年、第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞し、ベルリン・フィルを指揮して
ベルリン・デビューを飾った。その後もウィーン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめヨーロッパ、
アメリカ、カナダなどで精力的に活動を行い、国内のオーケストラとも多数共演している。現在、
東京都交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団終身名誉音楽監督、名古屋フィルハーモニー
交響楽団名誉音楽監督、神奈川フィルハーモニー管弦楽団特別客演指揮者を務めている。

Profile



© Yuji Hori

ヴァイオリン

三浦文彰 Fumiaki MIURA, *Violin*

2009年ハノーファー国際コンクールに史上最年少の16歳で優勝して国際的に脚光を浴びた。
サントリーホールARKクラシックスのアーティスティック・リーダー、宮崎国際音楽祭の音楽
監督を務めている。ロサンゼルス・フィルハーモニック、マリインスキー劇場管弦楽団、バン
ベルク交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団などと共演。指揮者はドゥグメル、ゲルギエフなど
と共演している。リサイタルでは、ルーブル美術館でパリ・デビューを果たし、室内楽ではズー
カーマンやマイスキー、ピリスなどと共演するなど、国内外で精力的に活動している。使用楽器
は株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1732年製ガルネリ・デル・ジェス
「カストン」。

管弦楽

東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、
2025年に創立60周年を迎えた。都響（ときょう）という愛称で親しまれている。

東京文化会館（上野）を本拠地として、オーケストラの演奏会を開催する
他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）などゲーム音楽の演奏、教育
活動や福祉施設での出張演奏など多彩な活動を展開している。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmsor.jp/>

月刊 都響

December 2025 **12**



ヤングシート Young Seat

12/18 2025 (木) 会場 東京文化会館

第1030回定期演奏会Aシリーズ
Subscription Concert No.1030 A Series

指揮／小泉和裕
ヴァイオリン／三浦文彰

チャイコフスキー：
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35
(約33分)

ショスタコーヴィチ：
交響曲第10番 ホ短調 op.93
(約57分)

ホールでの 過ごし方

- ◎携帯電話など音や光を発するモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中は静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しんでいます。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年と保護者をご招待し、
オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。
ご支援企業については月刊都響をご覧ください。

『Program Notes』 プログラムノート

今日のコンサートでは、19世紀のチャイコフスキー、20世紀のショスタコーヴィチという、ロシアを代表する2人の作曲家の作品を演奏します。

チャイコフスキー： ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35

ヴァイオリンのソリスト（独奏者）とオーケストラとが、会話をするように、ときに寄り添い、ときに刺激し合いながら、ともに音楽を作り上げていくのが「ヴァイオリン協奏曲」です。ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー（1840～1893）は、《白鳥の湖》などのバレエ音楽でも知られる作曲家ですが、このヴァイオリン協奏曲も彼の傑作の一つです。**第1楽章**には胸が熱くなるようなドラマティックなメロディーが登場し、**第2楽章**は独奏ヴァイオリンがもの悲しいメロディーを奏めます。続けて演奏される**第3楽章**はロシアの民族舞曲をベースとした快活なフィナーレとなります。

作曲されたのは1878年、チャイコフスキーが38歳になる頃で、彼の教え子でもあった若いヴァイオリニストに相談しながら完成させました。演奏するのはとても難しく、有名なヴァイオリニストからは「演奏不可能」と言われてしまいました。ようやく3年後に初演されましたが、その真新しい響きは聴衆を驚かせ、批評家からは「悪臭のする音楽」と厳しく批判されました。新たな時代を切り開くものは、人々に受け入れられるまで時間を要することがあるのです。もちろん今では名曲として愛されていますが、現代の私たちにも強い印象を残す作品です。



Pyotr Ilyich Tchaikovsky

ショスタコーヴィチ： 交響曲第10番 ホ短調 Op.93

作曲者のドミトリー・ショスタコーヴィチ（1906～1975）は、現在のロシアが「ソビエト連邦（ソ連）」だった時代に活動した作曲家で、今年は彼の没後50年という節目の年にあたります。ショスタコーヴィチは生涯に15曲の交響曲を残しました。この交響曲第10番は、1953年の夏から秋にかけて作曲されたものです。この年の3月5日、ソビエト連邦

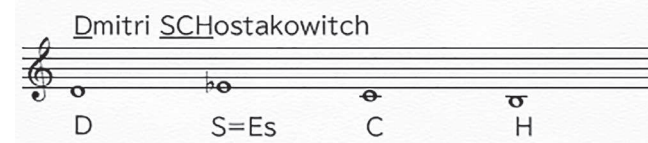


Dmitri Dmitriyevich Shostakovich

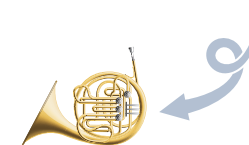
の独裁者ヨシフ・スターリンが亡くなりました。スターリンは芸術家たちを非常に厳しく統制し、自由な表現を許さなかったため、ショスタコーヴィチは常に命の危険すら感じながら作曲を続けなければならませんでした。前作の交響曲第9番*はソ連政府から激しく批判され、それ以来ショスタコーヴィチは交響曲を発表していませんでしたが、スターリンの死を機に、約8年ぶりにこの第10番を完成させたのです。

この交響曲の第3楽章には「秘密の暗号」が隠されています。ドイツ語の音名で「D（レ）・Es（ミ♭）・C（ド）・H（シ）」と並べると「D・S・C・H」、つまりドミトリー・ショスタコーヴィチをドイツ語で書いたときの綴り **Dmitri Schostakowitsch** の頭文字になります。この音型が曲中に何度も登場し、まるでショスタコーヴィチは自分の存在を音楽に刻み込んでいるかのようです。

*現在、都響 YouTube チャンネルで映像公開中
（詳しくは下記をご覧ください）



もう一つの秘密は、教え子のエルミーラ・ナジーロヴァの名前をもとにしたと言われる「E（ミ）・A（ラ）・E（ミ）・D（レ）・A（ラ）」という旋律で、第3楽章の中でホルンが12回も奏めます。



曲は全部で4楽章からなり、演奏時間は約57分という大作です。**第1楽章**は静かに始まり、低音弦の重々しい歩みとクラリネットの奏でる物悲しい旋律が印象的です。**第2楽章**はわずか4分ほどの激しいスケルツォで、リズムカルで力強い楽章です。**第3楽章**は神秘的な音楽で、先に説明した「DSCH」の音型とエルミーラの旋律が対話するように現れます。**第4楽章**は静かに始まり、やがてロシアの民族舞踊を思わせる活気ある音楽となり、「DSCH」の音型が勝利を告げるように力強く響いて華やかに終わります。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

今年2025年はショスタコーヴィチ没後50年。
ショスタコーヴィチの曲がたくさん演奏されます。

都響公式 YouTube チャンネルでは、昨年2月に演奏された交響曲第9番（今回の第10番の1つ前の交響曲）の映像を公開しています。

♪ショスタコーヴィチ：交響曲第9番 変ホ長調 op.70
都響スペシャル
2024年2月17日 サントリーホール
指揮／エリアフ・インバル



他にも都響の楽団員のインタビューや「ラジオ体操第一 オーケストラ演奏」など、東京都交響楽団の演奏を映像でお楽しみいただけます。